



今回は、中等部6期生で一般社団法人和歌山市医師会成人病センターの院長である高木さんにお話を伺いました。

訪問日：令和7年3月10日

智辯和歌山時代はどんな学生だったのですか

自分で言うのもおかしいですが、おとなしい学生だったと思います。自分の学生生活を振り返ってみると、一つ挙げるとしたら、何か一つのことを長く続けられる人だったのかな、と思います。

例えば、中学1年生の時の塾で隣に一つ上の先輩がいて、その方の腕が結構太くて、私の腕がすこ

く細く感じたのです。すごく差があって、ちよつと鍛えようと思いつたので。ずっと続けるために、何をしたらいいのかを考えて、お風呂に入る前にやるか決めたのです。それがずっと続いていて、実は今も続けています。40年以上も続けています。

そういう性格であれば、追及した教科があったのでは？

そうですね、英語が好きで、得意な教科の1つでした。小学校6年生の頃にABCとか覚え始めたのですが、のちに、辞書ひとつを核にしようと、自分が勉強したことをすべて辞書に書き込んで、辞書を見れば何でもわかるようにしたので。

しゃべる方は全くダメで、書いてばかりですね。それで、中学で先生に勧められた辞書に、そのように書き込みました。書き込みしていないページがないくらいです。

どの先生ですか？

どの先生かは忘れてしまいました。3人の先生に教わりました。



はじめは吉本先生、それから鳥居先生と北村先生。非常によく教えていただきました。辞書はもうほろぼろになってしまいました。今も持っています。努力した結果がこれです。ついで。

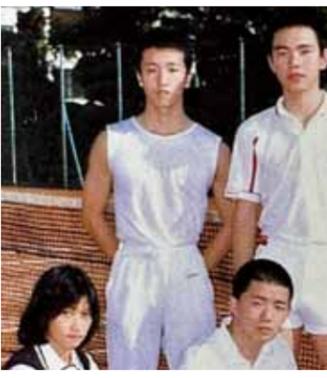
学校生活で何か運動とかしなかったのですか？

腕立て伏せをして腕を鍛えていたのですが、休憩時間によく腕相撲をしていました。楽しかったという思い出があります。自分の過去を、記憶を書き換えているかもしれません。多分、誰にも負けなかったと思います。1人か2人は強い人がいましたが、それでも休憩時間が終わる頃、授業が始まる直前まで粘っていたような気がします。

現役の智辯生に対して何か伝えたいことは？

学生生活でひとつエピソードがあって、それは、卒業の時に四角の陶器のプレートを製作するってことがあったと思います。私がの期生だったので、その前に卒業した方にはないものを作ろうと思ったのです。それで腕相撲は強い方だと思っていましたし、腕も太かった。筋肉を作ろうと自分の上腕を立体的に作りました。それがどのように焼き上がるのか、すごく楽しみにしていたのですが、まだまだ業者の方とお話する機会があり、その人から、「ひとつだけすこく焼くのに苦労したプレートがあり、それを焼くために手間がかかった。」と、すこく不満げに言われました。私は何も言えなかったのですが、今までにない、立体造形を作ったのは自分が初めてで、先駆者という自負があります。それは自慢できる思い出ですが、学生さんには、「卒業時のプレートには立体はやめておいた方がいい。お勧めできません。後で怒られます。」と言っておきましょうか。(笑)

それは前置きとして、現役の学生に対するメッセージ



クラブは、テニス部に入部していました。西村先生のご指導を受け、私たちの時に軟式テニスから硬式テニスに代わったので、私たちが硬式テニス部の初代となります。テニス部は楽しかったですね。クラブとしては比較的強かったです。県大会で優勝しましたし、近畿大会にも出場しています。結果は残していましたね。

ほかに趣味などはあったのですか。

パソコンが好きでした。小学校の時からパソコンは持っていました。当時は珍しかったと思います。パソコンの雑誌にプログラムが掲載されていて、電量量販店に置いてあるパソコンにそのプログラムを打ち込んだらゲームができる。わかって、結局できなかったのですが、朝から晩まで何時間もかけて打ち込んでいました。当時、ロールプレイングゲームが流行り始め

学校を卒業されてから医大に進学してどの教室に入ったのですか。

今自転車に乗ることが趣味です。速く走れなくていい。街中をブラブラ、ポタリングというのが好き。折られた自転車を買って、街並みを散策しながら走っています。週末には20kmくらい、ゆっくりと走っています。

私内科で、糖尿病内分泌代謝内科というところに入りました。主には糖尿病ですが全身の総合内科的なこともしていました。関連病院に赴いた時は、胃カメラや大腸カメラや気管支鏡を扱っていましたが、一般内科の診療もしていました。内科を希望したのは、一部の臓器を診るより、メンタルなことも含めてその人全身、全体を診

一般社団法人和歌山市医師会成人病センター 院長
医学博士
日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本医師会認定産業医
日本臨床検査医学会臨床検査管理医

1970年(昭和45年)4月生まれ
ご家族は奥様と息子さんが2人(中6と中3、いずれも智辯生)
1989年(平成元年)智辯学園和歌山高等学校卒
1995年(平成7年)和歌山県立医科大学卒

高木伴幸

たかぎ ともゆき



研究している様子 (2006. 6. 8 わかやま新報)

ほかにトライしてよかったことは？

この成人病センターは、主に人間ドックの検診をしています。50年の歴史がありますが、これまで検診の結果を渡すだけで、それではちょっと不十分だと思い、1年くらい前から積極的に検査結果のよくない人に状態を詳しく説明して、受診勧奨といたします。それを行うようにしています。そのようにしたこと、早期の白血球病が判明し、大事に至らなかつたという事例があります。一歩踏み込んだ治療、アドバイスをもっと充実させていきたいですね。

遺伝子に興味をもって、新生児糖尿病、その遺伝子研究をしていました。新生児糖尿病の原因となる遺伝子がいくつか発見されていますが、たまたま私が見つけたその遺伝子変異がまた世界では発表されていなかったのです。それを論文にするのが遅く、別の方が先に発表してしまったので、私が世界で初めてにはならなかつたのですが、「ほくが一番だった!」というこはわかつていて、そういう意味では満足でした。

最近、コロナワクチンが人にどのような影響を及ぼすのか、と